

第 1 期佐用町地域創生人口ビジョン・総合戦略に対するまちづくり推進会議まちづくり部会委員からのご意見等

町では、人口減少をできる限り緩和し地域に元気と活力をもたらすべく、平成 27 年度から令和元年度までを計画期間とする「第 1 期佐用町地域創生人口ビジョン・総合戦略」に基づいて、これまで取り組みを進めてまいりました。令和 2 年 8 月 27 日に開催した「産・官・学・金・労・言」各分野の代表者が集まる「まちづくり推進会議まちづくり部会」にて 5 年間の取り組みの総括を報告し、意見交換を実施したところ、以下のとおりご意見等頂戴しましたので、とりまとめの上、ご報告いたします。

第 1 期佐用町地域創生人口ビジョン・総合戦略総括に対するご意見等

- 政策も大事だが、町の中で地域の魅力を作っている方、元気に充実して暮らしている方にフォーカスして取り上げてみるのもそれで興味を持ってもらえる人が増えれば、将来的に定住してくれる人や、生き生きと地域づくりに取り組む人が増えたりするのかなと思う。
- 先日娘夫婦と奥長谷のゲストハウスに泊まった。コロナ禍で在宅ワークをしている娘婿が「これなら佐用でも仕事ができるな」と言うのを聞いて、「できたら帰ってきてほしい」と伝えた。自分の家族も町外に出て減ってきている状況だが、コロナはある意味チャンスだと思った。
- 佐用町が色々な取り組みをしていることをまずは町民が知らない。だから町外にも伝わっていかない。私の娘が何年か前に新潟に住んでいた。佐用にしかいない人には分からないかもしれないが、よそで生活していると佐用は色々な点で生活しやすい環境を作ってもらえているんだなと感じるとよく言っている。我々は少し伝えるのが下手ではないかと思う。きちっと伝え切れていない。人口が増える減るという効果に直接結びつくとは限らないが、こういったことを佐用に住む人間が自信をもって少しでも伝えていくことが大切なのではないか。
- 自分の集落には若い子がたくさんいるが集落行事に出てこない。70 代前後の年代が元気すぎて、若い人が前に出ていけない雰囲気がある。町としても世代交代ができるような仕組みを考えていけば、若い世代が帰ってくるかもしれない。
- コロナの影響下で全体的に高校生の求人 3 割減と言われているが、佐用高校の場合は 1 割減にとどまっており、500 社から求人が来ている。就職希望者が 60 人で、一人に対して 10 社くらい来ている。佐用町に就職受験するのが、3~4 人。佐用に根付くことを考えている生徒は少ない。昔は、集団就職で都会に送り出し経済発展を促すために、等質の高等学校教育を担保するのが国の目標であり方針だった。それが、今の（東京一極集中という）現状に表れている。今は高校ごとにも特色と個性ある教育を目指しなさいという方針に変わっている。学区再編もその一環。小学校や中学校の段階から、地域で生きていく意義であったり、個性的・魅力的な取り組みを生徒に見せていくことによって、生き方を変えていくような教育をしないとこの現状は変わっていかないのではと最近感じている。
- 宍粟市では、外に出た若者が帰ってきて地元就職してもらえる仕組みを作ろうということで、25 社の企業を集めて A4 判で企業図鑑を作成し、これを高校 2 年生や成人式の場で配布している。それがこういう企業があったなということで意識づけになる。高校の先生方が町内の企業をよく知っていただいて、生徒を後押しする努力をする必要があるのではないかと思う。企業という点では、佐用には幸いゴルフ場が 4 つある。これは大きな財産だと感じている。楽天の小深田選手が活躍しているが、佐用の出生数は昨年度 75 名となっており、これだと野球チームもできない。野球はあきらめて、中学校、高校にゴルフ

部を作って、無料でゴルフ場で練習、育成してはどうか提案したい。

- 総合戦略の達成率としては相当頑張られたと思う。ただ、達成して次どうするのかのフォローアップが必要。例えば、学校跡地に入った企業がどう伸びていくのかとか雇用が増えていくのかとか。人口について言えば、減るのは仕方がないので、人口が少ない中でいかに充実した豊かな暮らしができるのかを見直さなくてはならない。若者が活躍できる場の実現が必要。若者は頼りないと感じることも多いが、佐用でも若者が上に立つ組織を作って、それにアドバイザー・顧問として年長者が支援するような組織をいくつか意図的に立ち上げて、若者に何かをやってもらうというようなことにトライしてみてはどうか。これだけいろいろな施策をやられているので若者を前面に押し出していきたい。
- 自然減は時間がかかる。今何ができるか考えたときには社会減対策だと思う。県民局としてはコロナ対策をしっかりと行いつつ、交流人口の拡大に中長期的に取り組んでいきたい。佐用、西播磨の魅力をPRして風穴を開けていくという点で、歴史・文化に着目して、佐用では山城を積極的にPRして人を呼び込んでいきたい。災害を経験しているだけに、町民の方の防災意識が高いという面もPRになる。自主防災組織は目標達成できているが、防災訓練は達成できなかったというデータがあった。「自立のポテンシャル」として、自分で考えて動くという自立の気持ちを養成していく必要があるのではないかと感じる。また、コロナで都会の吸引力が弱くなっている中で、山間部においては、WEB、ITの活用がこれからさらに重要性を増す。雇用面では、企業に地元採用枠があるといいと考える。